

# 研究推進ニュースレター



東京未来大学  
研究推進委員会発行  
2017年8月31日発行

## ご挨拶

「研究推進レター」最新号をお届けいたします。今後の本学における多様な研究活動活性化の一助となることができれば幸いです。今回の発行にあたってご寄稿あるいは情報提供いただいた教職員の皆様、コメントをお寄せいただいた大坊学長、編集の現場でご尽力くださった山極和佳委員、小林寛子委員に厚く御礼申し上げます。

2017年度研究推進委員会委員長 宅間 雅哉

## 科研費ニュース

平成 29 年度の本学の日本学術振興会科学研究費研究計画調書の採択状況は以下の通りです。

	(H29 年度)		(H28 年度)	
	件数	金額 (円) *1	件数	金額 (円) *1
基盤研究 (B)	1 件 *2	3,500,000	1 件	3,500,000
基盤研究 (C)	2 件	6,000,000	0 件	0
若手研究 (B)	1 件	2,300,000	0 件	0
合計	4 件	11,800,000	1 件	3,500,000

\*1 金額は直接経費

\*2 H28 年度より継続

H29 年度の採択は本学からは、基盤研究 (C) の 2 件と若手研究 (B) の 1 件、また、H28 年度からの継続が基盤研究(B)の 1 件でした。H28 年度と比較して、採択件数が大幅に増加しました。来年度も、さらに採択件数が増えることを期待するところです。

さて、科研費制度が変更される予定です。「科研費改革の三本柱」として以下の 3 点が変わりますので、ご留意ください。

- 1 審査システムの見直し (平成 30 年度助成～)  
大括り化した新「審査区分表」の適用、「総合審査」等の本格実施
- 2 研究種目・枠組みの見直し (平成 29 年度助成～)  
「挑戦的萌芽研究」の発展的見直し (平成 30 年度助成～)  
「特別推進研究」、「若手研究 (A)」の見直し・新制度の実施等
- 3 柔軟かつ適正な研究費使用の促進

なお、詳しくは、文部科学省の「科研費改革の実施方針」をご覧ください。

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/science/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/06/1362788\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/06/1362788_01.pdf)

平成 29 年度科研費スケジュールと要領は以下の通りですが、詳細なスケジュールは 9 月に日本学術振興会より発表され次第、お知らせする予定です。また、応募にあたっては、科研費の採択にも詳しい大坊学長の指導を仰ぐことをお勧めいたします。

\* 公募開始：平成 29 年 9 月公募開始

\* 学内期限：平成 29 年 10 月中旬

\* 提出期限：平成 29 年 11 月上旬

## 外部資金等公募情報 -学会以外の研究助成の紹介-

科研費以外にも、様々な団体からの研究助成があります。このページでは、そうした研究助成の募集情報を載せているサイトをご紹介します。この他、各学会の HP においても関連する研究助成の募集情報が掲載されていることがあります。先生方の研究に適した助成の検索に役立てていただきたいと思います。

### 1 公益財団法人 助成財団センター (The Japan Foundation center)

助成プログラム約 3,000 件を収録したデータベースがあります。事業形態や事業分野、募集時期による検索、キーワード (フリーワード) による検索が可能です。「助成金募集ニュース」には、ニュース発行の月に募集が開始される助成の情報が掲載されています。

(公益財団法人 助成財団センター <http://www.jfc.or.jp/>)

### 2 GRANT SQUARE

300 以上に細分化された研究分野から、研究助成を検索することができます。「採択実績から探す」という機能では、特定のキーワードを含む採択実績から、その研究課題が採択されやすい研究助成を探すことも可能です。一般会員登録をすることで、登録した研究助成・検索条件に関する情報を受け取れます。

(GRANT SQUARE <http://info-innovation.jp/>)

### 3 コラボリー／Grants (研究助成)

国、地方自治体、民間助成団体の公募情報が検索できます。また、各助成プログラムが過去にどのような研究課題を採択したかがわかる採択実績も提供されています。会員登録をすることで、研究テーマにあった助成金情報をメールで受け取ることができます。

(コラボリー／Grants (研究助成) <https://www.colabory.com/grants/>)

※ 各サイトの利用規約を事前にご確認の上、ご利用ください。



## 東京未来大学の紀要等紹介

東京未来大学には紀要をはじめ、研究成果を発表する論文集が複数あります。平成 29 年度は特別号・増刊号が発行されるものもあり、論文発表が盛んに行われています。

### 1 「東京未来大学研究紀要」第 11 号及び第 12 号 (両号とも平成 29 年 12 月発行予定)

① 申し込み締め切り 平成 29 年 7 月 21 日 (金)

② 原稿提出期限 平成 29 年 9 月 15 日 (金)

#### ③ 主な特徴

- ・本年度は研究力向上のため 2 号を同時期に発行する。
- ・査読が入る (外部査読者が入る可能性がある)。
- ・投稿の制限枚数について、個人研究費などによる負担が可能な場合に超過可能とする。
- ・縦書きも可能である。
- ・非常勤講師の先生も執筆資格がある。
- ・その他規程を参照のこと。

(参考「東京未来大学研究紀要 投稿規程」)

## 2 「モチベーション研究」第7号（平成30年3月発行予定）

- ① 申し込み締め切り なし（随時受け付け）
- ② 原稿提出期限 平成29年11月末
- ③ 主な特徴

- ・「モチベーション研究」は、学際的見地に立って、モチベーションに関わる未公開の研究論文、事例、展望、文献レビュー、評論、調査、資料、書評などを掲載する。
- ・原稿は、いずれの種類についても原則24,000字以内とし、MS Wordを用いてA4判横書きで作成する。
- ・原稿作成上の規定や表記法、文献の引用などについては、APAマニュアルならびに日本心理学会「執筆・投稿の手引き（2005年改訂版）」に準拠する。
- ・投稿された研究論文は、本誌編集委員会が委嘱する審査者の審査結果に基づき、編集委員会が掲載の可否を決定する。研究論文以外の投稿についても、編集委員会が審査し掲載の可否を決定する。原稿の改稿を求められることがある。
- ・その他規程あり。

（参考「モチベーション研究 論文投稿規程」、<http://www.imsar.jp/publication.html>）

## 3 「未来の保育と教育—東京未来大学保育・教職センター紀要」特別号（平成29年12月発行予定）・第5号（平成30年9月発行予定）

- ① 申し込み締め切り 特別号：平成29年7月21日（金） ・ 第5号：平成29年12月13日（水）
- ② 原稿提出期限 特別号：平成29年9月19日（火） ・ 第5号：平成30年3月16日（金）
- ③ 主な特徴

- ・保育・教育にかかわる実践についての研究成果を掲載することとする。
- ・本紀要に執筆できる者は、東京未来大学（以下本学）に在籍する専任教職員、本学客員教員、本学専任教職員、本学客員教員が執筆する論文の共著者となる学外者、上記以外の執筆者のみによる論文については、未来の保育と教育編集部が適当と認めた者。
- ・投稿された原稿については、編集部で査読する。査読は、部員以外の本学専任教員または学外者に依頼することがある。ただし、特別号では査読は行わない。
- ・提出原稿はA4紙に出力したものとし、併せてデータを提出する。原稿の長さは、横書きの場合、23字×39行、縦書きの場合、31字×28行を1枚とし、20枚以内（2段組で10頁以内）とする。この長さに、表題、欧文要旨、図版等も含むものとする。
- ・その他規程あり。

（参考「未来の保育と教育—東京未来大学保育・教職センター紀要—執筆要綱」

「未来の保育と教育—東京未来大学保育・教職センター紀要—特別号 執筆要綱」）

## 4 「平成29年度教育改善向上（FD）年報論文および増刊号」（平成29年12月発行予定）

- ① 申し込み締め切り 平成29年7月14日（金）
- ② 原稿提出期限 平成29年9月8日（火）
- ③ 主な特徴

- ・教育改善（FD）年報論文は、ファカルティ・デベロップメント（以下、FD）に関する論考・シンポジウムや講演会の記録及び依頼原稿、FDの実践・活動、ならびに広義のFDに資する内容を掲載している。
- ・本年報論文に筆頭著者として投稿できる者は、本学の専任教職員となっているが、今年度は、増刊号との合併発行を行う。増刊号には、本学の非常勤講師も投稿できる。



## 研究紹介

東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介するとともに、大坊学長より、「採択のポイント」を解説していただきます。今回は、ともに科学研究費の基盤研究（C）に採択された鈴木公啓先生、平部正樹先生のおふたりにお話を伺いました。

Q 1 鈴木先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使  
い道、計画などがあれば教えてください。

今回科研に申請した研究テーマは「歩きスマホ防止を目指した歩行時の頭部角度と心理状態に関する研究」です。平たく言うと、「歩いている時の頭の角度によって気分は変わるのかどうか調べよう」ということになります。

私のメインの研究テーマは、装いの自他に及ぼす影響なのですが、最近は装いを身体そのものの振る舞いへと拡張（？それとも収斂？）させて研究を展開しています。その一環として、今回の研究の企画をおこないました。実は、科研の申請分科は「健康・スポーツ科学」だったりします。

科研の使い方ですが、主に、実験環境の構築と、実験協力アルバイトの謝礼、そして、実験参加者への謝礼となります。実験環境は、日曜大工的にホームセンターで布やらポールやら棚やらを購入し組み立てたりなんだりして、まさしく手作り感満載で構築していきます。購入しても、うまくいかないこともあり、追加で購入する必要が生じる場合もあります。このように、実験環境構築に費用がかかります。また、実験実施において、機材の関係から他大学の大学院生に協力をいただくため、その分の謝礼がそれなりに発生します。科研のおかげで費用に余裕ができるのはありがたいことです。

Q 2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した点、アドバイスなどありましたらお願いします。

毎回、何が良いのかわからず、四苦八苦しなから、そして試行錯誤しながら申請書を書いて申請していました。今回も、全体としては特にこれまでと違った工夫などはなかったため、何が良かったのかは実はよくわかりません。わかりやすく、図も入れて・・・と、一般的なことをしたぐらいです。強いて言えば、これまで申請したことのない申請区分に申請したことでしょうか。また、タイトルは、共同研究者のアドバイスを生かし、目を惹くような言葉を入れています。

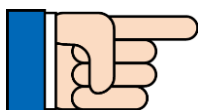
ともあれ、特に何が良かったのかわからないため、むしろ皆さんからアドバイスを頂きたいくらいでもあります。

Q 3 研究の進捗はいかがですか？ また、今後の展望についてお聞かせください。

まだ予算配分も始まっていませんので、具体的には進められていません。ただ、頭の中では、実験デザインについて、たまに（？）考えています。今回の期間は3年間なのですが、毎年、研究計画どおりに進めていく予定です。

今回の研究もそうですが、引き続き他分野の研究者と共同しながら研究を展開していきたいと思っています。今回も、他分野の先生方（かつ、本学の同僚と元同僚）との共同研究です。他分野の先生方と組むことによって可能となる研究テーマがあります。また、広がりをもつようになる研究テーマもあります。他分野の方々との共同研究ならではの展開を楽しみながら、研究をおこなっていききたいと思っています。

## 大坊学長の「ここが採択のポイント」



これまでも、アピール性の高い申請書を出されていた鈴木先生です。また、多くの研究成果を挙げられてきたので、これまでなかなか採択されなかったことは謎とも思っていました。社会問題となっている「歩きスマホ」、それを姿勢という点からの切り込みはユニークです。それと、研究成果の蓄積がここに来て高く評価されたものと思います。



Q 1 平部先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使い道、計画などがあればお教えてください。



今回採択されたテーマは、「通信制高等学校生徒の QOL 向上のための総合的支援に向けた調査研究」です。通信制高校が成立したとき、日本は高度経済成長期にありました。通信制高校は勤労青年の学校としての役割を担っていました。しかし、高校進学率が高まり、そのような生徒が減少する一方で、多様なニーズを持つ生徒が入学するようになってきました。この研究は、そのような生徒の学習状況や生活状況、メンタルヘルスなどの実態およびその経過を縦断的に追跡し、総合的な支援方法を検討することを目的としています。もともとは、東京未来大学から通信制高校との連携が提案され、その一環として 2014 年度から継続的に通信制高校生徒を対象とした質問紙調査を行ってきました。その際に改めて先行研究を調べてみると、このような研究はあまりなく、貴重なデータだということがわかりました。ですので、この研究をしっかりと形にしていこうと考え、今回申請しました。通信制高校生を対象とした大規模な質問紙調査と、それに続いて、比較対象となる通学制高校生の質問紙調査、通信制高校生のインタビュー調査を行う予定なので、調査実施とデータ入力、インタビューのテープ起こし等で研究費の大半を使うと思います。

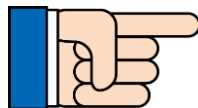
Q 2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した点、アドバイスなどありましたらお願いします。

今回は、これまで行っていた研究をさらに発展させていくという形で申請しています。質問紙調査は、通信制高校生 4 千名程度を対象にした大規模なものです。通信制高校の生徒を対象にした研究で、これほど大規模な調査研究は、日本では行われていません。このフィールドをすでに確保していることや、プレスタディを行っているため実行可能性が高いことなどを強調して研究計画調書を作成しました。研究メンバーの役割や年度ごとの計画は、できるだけ図表を用いて具体的に説明しました。その他、申請書類の大事な文章にはアンダーラインを引いたり、できるだけメリハリをつけた書類作成を心がけました。調査研究だけではなく、支援方法の提案を行うというところまで研究計画に加えたことも良かったのではないかと考えています。

Q 3 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせください。

3 年計画の 1 年目は、これまで行ってきた質問紙調査を継続実施しつつ、2 年目以降の新規調査の実施準備をするという計画になっています。通学生高校生の質問紙調査と、通信制高校生のインタビュー調査の実施準備を進めているところです。できるだけ現場に活かせる形でフィードバックできる研究成果を示していきたいと考えています。

## 大坊学長の「ここが採択のポイント」



通信制高校生を対象としたこの種の研究が希有であること、対象者数規模が大きいこと、本学園の背景、そして、プレスタディで得たデータ、知見があることは大きな評価点だったのではないかと考えられます。特に、事前にデータがあることは、申請書を記述する際にも力強い書きぶりになるはずですし、説得的な内容であると考えられます。審査者もあいまいな記述内容よりも明らかに背景、根拠のあるものを高く評価するものです。

## 編集後記

今春、本学は開学 10 年目を迎え、そこに集う教員の専門領域も多岐にわたるようになって参りました。

そこで今号では、外部資金公募情報をお伝えするにあたり、限られたスペース内で個別の情報をあげるという形式ではなく、検索サイトをご案内することと致しました。それぞれの専門領域に合わせて活用して、科研費に加えて各種の外部資金を用いることにより、研究が推進されることを期待しております。